

発行
2024年6月
No.41

日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部 ニュースレター

発行人
支部長 木佐 健悟

北海道ブロック支部事務局
(市立美唄病院内)
TEL:0126-63-4171
mail:hpca.jimukyoku@gmail.com

編集前記

ブロック支部長の木佐です。今回は役員の入替わりの時期のため、私が編集しており、シンプルなレイアウトで支部ニュースレターをお届けします。いつものニュースレターを楽しみにしていた方には申し訳ありません。

北海道ブロック支部長再任のご挨拶

JA 北海道厚生連倶知安厚生病院総合診療科 木佐健悟

この度の理事選挙を経て、2024年度～2025年度の北海道ブロック支部長に再選となりました木佐と申します。皆様のご協力のおかげで、この4年間支部活動を続けることができました。改めまして、これから2年間よろしくお願いいたします。

2024年度～2025年度に開催される北海道での大きな行事としては、ブロック支部の事業ではありませんが、2025年6月に北海道で開催する全国の学術大会です。北海道ブロック支部のメンバーから実行委員を公募しました。現在30名少々の実行委員で準備を始めているところです。準備が本格するにつれ、皆様にご協力をお願いするケースが出てくると思いますので、その際はよろしくお願いいたします。また、このために2025年6月の北海道地方会はお休みたいと思いますのでご了承ください。

支部の主要な行事としては、定例のものとして毎年6月の全世代地方会、毎年11月の北海道プライマリ・ケアフォーラムがあります。また、専攻医支援としての専攻医オリエンテーション、ポートフォリオ検討会、プログラム責任者の情報共有ネットワークづくりに支部独自のサイトビジットも行っております。

昨年は北海道プライマリ・ケアキャンプと称して、学生向けの企画も1泊2日で赤平市で行いました。こちらは参加者となる学生さんが中心の企画ですので毎年毎年ニーズを確認しながら実行の可能性を探っていかたいと思っております。

薬剤師部会はWebでの定例会の他、地方会の前段での現地でのミーティングが恒例化しそうです。

少しでもプライマリ・ケア、総合診療、家庭医療に関わる人のネットワークが広がると良いなと思っております。

北海道ブロック支部の事務局は市立美唄病院の皆様をお願いしております。事務局の負担が大きにならないように、新しい事業を始める時には予算の面だけで無く、できることは自分たちでやるなど、工夫しながらやっていきたいです。

支部の活動内容については、年に3回（主に6月上旬、10月上旬、2月上旬）に行われる幹事会で議論しています。何か取り上げてほしいことや、提案、疑問などありましたらブロック支部事務局までご連絡ください。

写真上：セッションとセッションの間に表示された北海道大会宣伝のスライド
写真中：浜松大会閉会式での次期大会長挨拶
写真下：セッションとセッションの間に流れる動画
(JPCA2025のウェブサイトから見られます)



2025.6.20(FRI) → 22(SUN)
※6月20日(金)には北海道内(札幌市以外)での企画を予定しています

大会長 木佐 健悟
JA 北海道厚生連 倶知安厚生病院 総合診療科
日本プライマリ・ケア連合学会
北海道ブロック支部長

演題募集
2024年11月18日(月)～2025年1月9日(木)
※締切の延長はございません

一次参加登録
2025年2月4日(火)～2025年4月24日(木)

URL
https://plaza.umin.ac.jp/jpca2025

JPCA



今後の予定 第 12 回北海道プライマリ・ケアフォーラム開催予告

2024 年 11 月 16 日(土)午後、札幌市かでの 2・7 で第 12 回北海道プライマリ・ケアフォーラムが実施されます。実行委員長は釧路協立病院の渡邊由佳先生で、現在実行委員の皆さんで準備中です。詳細が決まりましたら、9 月号のニュースレターの他、ブロック支部のメーリングリスト、ホームページなどでお知らせします。

また、例年プライマリ・ケアフォーラムと同時開催している北海道ブロック支部第 9 回学術集会ですが、一般演題を現在募集中です。締切は 7 月 5 日(金)です。北海道医学大会のオンライン演題登録のウェブサイトから「プライマリ・ケア」を選択して、ご登録ください。
<http://www.hokkaido.med.or.jp/igaku/online/>

トピック① 支部役員改選のお知らせ

2024 年度～2025 年度の幹事・監事が決定いたしました。2024 年 4 月 15 日から 21 日に北海道ブロックに所属する代議員を対象に、支部役員（幹事、監事）の立候補届け出を受け付けました。立候補者が幹事 15 名、監事 2 名の定数内であったことから、無投票当選となりました。

新幹事・監事は以下のとおりです。

〈幹事：15 名（敬称略）〉

今江 章宏 寿都町立寿都診療所 再
大久保 彩織 勤医協札幌病院/他 再
加藤 聡一郎 釧路協立病院 新
加藤 利佳 手稲家庭医療クリニック 再 【副支部長】
佐々尾 航 北海道立羽幌病院 再 【副支部長】
笹岡 佑樹 札幌溪仁会リハビリテーション病院 再
佐瀬 雄治 学校法人電子開発学園北海道情報大学 新
佐藤 健太 札幌医科大学総合診療医学講座 新 【副支部長】
佐藤 弘太郎 本輪西ファミリークリニック 再 【副支部長】
鈴木 聡 市立旭川病院 再
田村 英俊 寿都そよかぜ薬局 再
中島 徹 向陽台ファミリークリニック 再
山口 章江 十勝勤医協帯広病院 再
山崎 礼子 栄町ファミリークリニック 新
渡部 和也 寿都町立寿都診療所 再

〈監事：2 名（敬称略）〉

小嶋 一 手稲家庭医療クリニック 新
山田 康介 更別村国民健康保険診療所 新

5 月 25 日(土)にオンラインで 2024 年度第 1 回幹事会を新メンバーで行いました。その場で、幹事の中から 4 名が副支部長に指名されました。以下、副支部長の挨拶です。

この度、北海道ブロック副支部長を拝命しました手稲家庭医療クリニックの加藤利佳と申します。諸先輩方のご功績を受け継ぎつつ、これからの北海道におけるプライマリ・ケアの在り方を見据えながら、精進してまいります。微力ではありますが、どうぞ宜しくお願い致します。

手稲家庭医療クリニック 加藤利佳

北海道立羽幌病院の佐々尾航です。引き続き副支部長を拝命いたしました。おもに若手医師学生支援の担当として、道内の 3 医育大学向けの企画や、専攻医のオリエンテーション、サイトビジットなどを担当させていただいています。多くの先生に様々な企画に講師やファシリテーターなどご協力いただき感謝申し上げます。引き続き北海道の総合診療を盛り上げられるように尽力してまいります。よろしくお願ひいたします。

北海道立羽幌病院 佐々尾航

千歳市民病院内科・札幌医科大学総合診療医学講座の佐藤健太と申します。いままでは全国学会の委員会活動かソロ活動が中心でしたが、今季から北海道ブロック支部の副支部長に任命していただきました。中小病院における家庭医療の実践、学生～専攻医の教育・勧誘活動といったこれまでの経験を活かしつつも、道内各地のニーズや課題があれば積極的に新たな取り組みにも関わっていければと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

千歳市民病院内科・札幌医科大学総合診療医学講座 佐藤健太

北海道家庭医療学センター本輪西ファミリークリニック佐藤弘太郎と申します。木佐支部長の元、オール北海道で総合診療を盛り上げていけるように学生・若手からベテランの方々まで何らかのお役に立てるように引き続き、お力添えできればと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。

北海道家庭医療学センター本輪西ファミリークリニック 佐藤弘太郎

トピック②

北海道ブロック支部 新専攻医オリエンテーションの報告

2024年4月20日(土)に、新専攻医オリエンテーションを札幌市にあるワーキングカフェ、大人座を貸し切り開催しました。

総合診療、ならびに総合診療と新家庭医療の並行研修の新専攻医、合わせて17人の先生方に参加頂きました。

北海道家庭医療学センターの八島駿先生、石塚浩暉先生からは専攻医期間中にやるべきことについてレクチャー頂き、手稲家庭医療クリニックの谷村夏姫先生、小山裕基先生からは実際の事例からどのようにポートフォリオ(家族志向のケアの事例でした)を作成していくのか、グループワークを行って頂きました。また、今年は専攻医同士がよりコミュニケーションをしやすくするため、会議室ではなく初めてカフェで行いました。事後アンケートでも好評だったので、来年度以降もリラックスした雰囲気に参加できるように準備、開催していきたいと思えます。

若手医師学生支援委員会では、今年度は専攻医向けの企画として、秋頃に専攻医向けの学習企画やポートフォリオ検討会(いずれもオンライン)を行うことを検討しております。指導医のみなさまには講師のお願いをすることもあるかと思えますので、ご協力頂けますと幸いです。専攻医のみなさん、詳細決まりましたらメーリングリストやLINEなどでお知らせしますので、ぜひ参加頂ければと思います。

若手医師学生支援委員会 委員長

道東勤医協 釧路協立病院 加藤 聡一郎



トピック③

札幌医科大学 総合診療学習会報告

2024年3月8日(金)に総合診療学習会を札幌医科大学で開催しました。札幌医大61期卒業で地域枠1期生の高石恵一先生に講師を担当いただき、「十勝での家庭医療の実践と患者の思いを聞く問診とは」として講演いただきました。北海道家庭医療学センターに所属され、現在は中札内村立診療所で所長として、地域枠の義務年限終了後も地域で医療に従事されています。

子供の頃から医師を志し17歳の時には「何でも相談される医師」になりたいとすでに家庭医を目指したことや、自然豊かな中札内村の魅力をたっぷり御紹介いただきました。本題に入り、家庭医とは「ありふれた病気の専門医」として「あなたの専門医」になることであるとまとめていただき、年齢を問わずかかりつけ医となり、患者1人を通して家族全体を診ることができること、病気だけではなく病にならないように予防にも目を向けることなどが家庭医としてできることと伝えていただきました。「その地域のニーズに合った医療を行うことができる」として、中札内村で実践されている地域医療を伝え、家庭医としての魅力もたっぷりお話しされました。

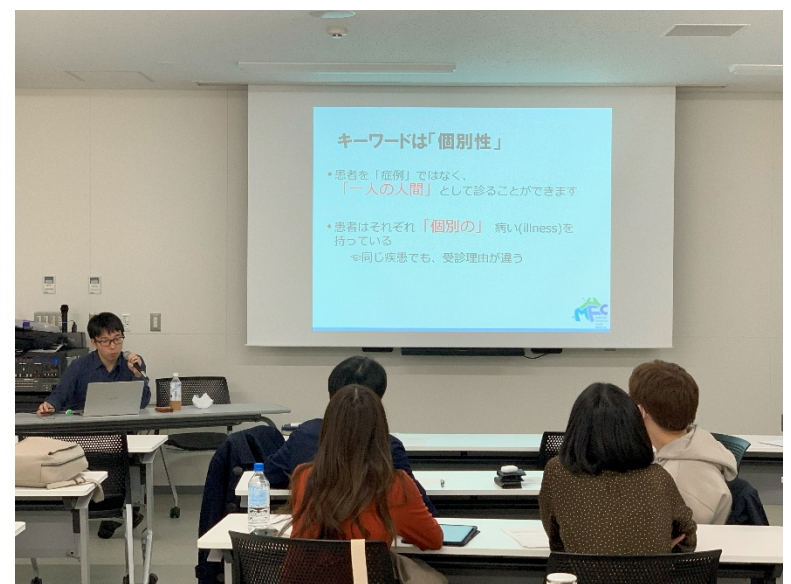
後半には、「患者の思いを聞く問診とは」として、なぜ症状で受診した3人の患者を例にして、同じ症状であっても患者の思いは様々であり、魔法の言葉として「何か気になっていることや言い忘れたことはありませんか?」と診察終了前に声かけしてみよう、と提案されました。初学者でも個別ケアを行える手法として「患者中心の医療(PCCM)」を紹介され、「病い(illness)」の4要素として「か・き・か・え」についてレクチャーし、症例の「か・き・か・え」をグループでディスカッションしていただきました。

その後の質疑応答では、家庭医を目指す進路や勉強方法、都会と郡部での総合診療・家庭医療の違いなどなど、今回ファシリテーターとして参加いただいた大久保彩織先生も交えてお話しできました。予定時刻を30分以上もオーバーし、さらに解散後もそれぞれの医師のもとに学生さんが寄ってきて質問を投げかけてくれました。講師を務めていただいた高石先生からは、「学生さんの目つきが真剣で嬉しかった」とコメントをいただきました。

開催にあたって、札幌医大総合診療医学講座の辻教授、佐藤健太先生、神野敦先生に多大なるご協力いただきました。改めて感謝申し上げます。

若手医師学生支援委員会 担当副支部長

北海道立羽幌病院 佐々尾航



トピック④

南郷栄秀先生の **EBM** 勉強会@旭川

～南郷栄秀先生！教えて！**EBM**！～ 開催のご報告

旭川医科大学の学生有志の企画から、北海道ブロック支部の若手医師学生支援委員会の主催で、東京の聖母病院総合診療科の南郷栄秀先生をお招きし、EBM 勉強会を開催しました。

2024年5月18日・19日の2日間に南郷先生のEBM勉強会を行い大盛況でした。旭川医大で開催したにもかかわらず、札幌や名寄から学生のみなさんが多数参加してくださいました。参加学生の学年も1年～6年と幅広く、南郷先生はどの学年にも面白くわかりやくレクチャーを行ってくださいました。

学生にとって必須の内容でも学部教育では時間をとることができない内容や大学の授業ではなかなかわかりにくい内容も面白くわかりやすく伝えていただきました。例えば、製薬会社のパンフレットでのグラフや表の見方、ポリファーマシーにおける薬剤の整理整頓、論文を読む際のポイントなど目から鱗が落ちまくる2日間でした。

今回の勉強会後に南郷先生にお尋ねしたところ、来年2025年5月17,18日（第3週の土日）ならEBM勉強会を旭川医大で開くことは可能ということでスケジュールを押さえていただいています。

今度も同じ内容で、たくさんの学生のみなさんや医療者の皆さんにもぜひとも集まっていたきたいと感じました。

この度はお忙しい中で旭川までお越しいただいた南郷先生に御礼申し上げます。

若手医師学生支援委員会
旭川医科大学4年 大軒 悟

